

夢が丘中新聞

おがちゅう

ゆめ

新温泉町の夢が丘中1年は、自分たちが住む地域の自然や歴史、文化などを調べ、ふるさとの魅力を再発見した。

自然、歴史、文化を学ぶ

子どもの成長と 湯村温泉まつり

湯村温泉まつりは、子どもたちからおよそ30年前に建てられた湯村温泉の重要な建物で、中には健康をつかさどる薬師堂が建っている。

その後、小学校1年生の子どもたちの稚児行列があり、正福寺を出発して薬師堂まで歩く。薬師堂では、

地域の幸せを願って法要が行われる。



文化祭で演奏する夢が丘中1年生

ふるさとの魅力再発見

綱引きに使う綱の大きさは直径50〜60センチ、長さ100メートル、重さ4トン、とても大きなものだ。直浦綱引きで盛り上がる湯村温泉まつりだが、お湯を発見した慈覚大師さんへの感謝を込め、地元住民が集まって朝の8時から荒湯で正福寺の

綱引きに使う綱の大きさは直径50〜60センチ、長さ100メートル、重さ4トン、とても大きなものだ。直浦綱引きで盛り上がる湯村温泉まつりだが、お湯を発見した慈覚大師さんへの感謝を込め、地元住民が集まって朝の8時から荒湯で正福寺の



荒蕩のある湯村温泉街中心部



自然豊かなきれいな景色が広がる照来盆地 (岡田侑花)

照来盆地の形成

照来は、さまざまなことが起こって今の地形になっていて、今も知られています。今の照来は昔、照来をすべって囲むほどの火山だ。火山活動が活発に起こった。その影響で、中の溶岩がなくなり溶岩があつた場所が空洞になり、火口が下に落ちてしまった。これが照来カルデラだ。この照来カルデラの中に雨水などがたまり、照来湖ができた。その後、照来湖の水は一番低い飯野の方面に流れていき、これを繰り返すことで今の照来が出来上がった。そして人が住み始めた後も自然豊かなまま。照来はここから見てもきれいな景色が見られる。



平和を祈るモニュメント

夢千代館の入り口にあるモニュメントは、手のひらを合わせたような形に丸くくりぬいた球石を包み、中心に明かりがともされていく。これは、夢千代が求めた「人のぬくもりとあたたかさ」を表現し、平和を祈るものだった。この灯火は夢千代日記のこのページに描かれている。

広島との交流

を通じた広島市との平和交流の一環として、平和公園の「平和の灯」から分火されたもの。このほかにも広島と新温泉町の交流として、広島にある原爆犠牲者追悼平和祈念館にお参りして、平和を祈る。また、子どもたちのために紙芝居をする。8月26日には、戦没者慰霊祭を行う。旧照来中学校の体育館から見て、右奥にある慰霊碑の中に



昭和の時代にタイムスリップしたような。テレビドラマ「夢千代日記」は、1981年に放送された。作者は、夢が丘中学校の校歌を作詞した、早坂暁さんだ。白血病であと3年の命と宣言された夢千代(吉永小百合さん)が山陰の小さな温泉町の置屋を一人で切り盛りする中で、彼女を取り巻く人たちの人間模様を描いた物語だ。夢千代日記が放送されたときはとても大人気番組だったみたいだ。夢千代館は2004年に開館した。中に入るとそこには懐かしい昭和の街並みがある。タイムスリップしたかのような不思議な空間を体験でき、夢千代の世界へと誘う。夢千代館にもちよっとした観光スポットがあ

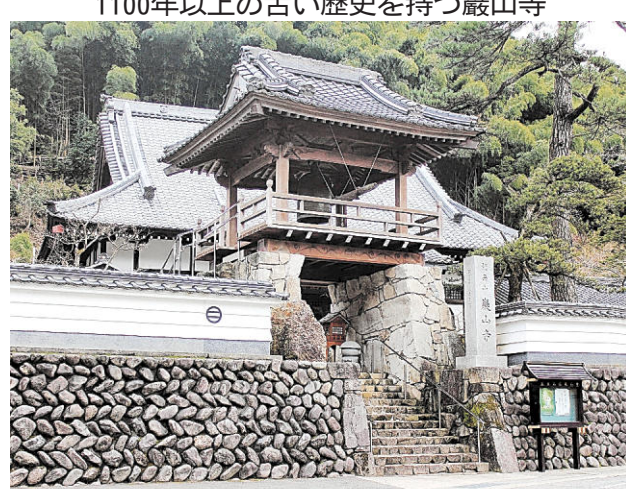
昭和にタイムスリップ 夢千代館

る。「夢手紙」だ。夢手紙は吉永小百合さんが提案した。来館者が1年後の自分や友達に手紙を送るタイムカプセルのようなものだ。口にしては言えない思い、感謝の気持ちなどを手紙にして、1年後に届くポストだ。夢千代日記物語コーナーや夢千代体験ゾーンというのもある。体験ゾーンにはドラマセットの風景や小道具などが展示してある。2階には、大正〜昭和の湯村温泉の昔懐かしい写真やおもちゃが展示してある。昔のDVDや机、着物もあり、とても興味深かった。これ以外にもいろいろなコーナーがあるのでぜひ、行ってみたい。(長野遥華)

1年生が作った新聞です

平安から続く 巖山寺

7月26日に、飯野地区にある巖山寺に行き、山石亮秀住職さんに巖山寺の歴史などについて話を聞いた。巖山寺は、今から1162年前の861(貞観3)年にできたお寺だ。平安時代の最初のころだ。藤原道長が生まれたのが966年なので、それより前に巖山寺はできていた。前は12のお寺があった。天皇の子供も病気になる、病気が治った。そこで、重慶さんと慈覚大師さんが来て、このお寺は大事だと思いつくお寺にまとめた。面積は約4千平方メートルで、そんなに広いお寺だと建築費は高いと思っていた。今から新しく建てるなら2億5千万円



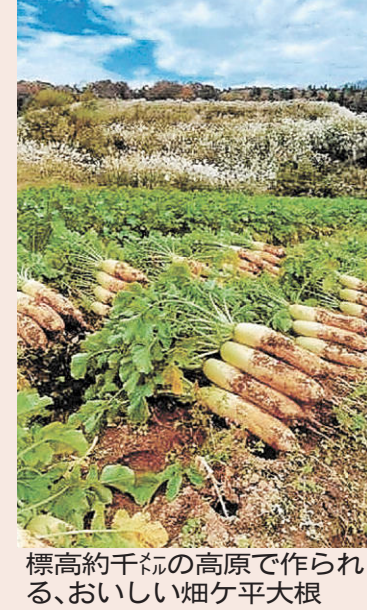
1100年以上の古い歴史を持つ巖山寺

くらいかかるそう。うまい棒なら2083万個以上買える。お寺にはたくさんのお金がかかることがわかった。巖山寺の1年間の行事を紹介する。8月13日に先祖を迎えるために、灯籠に火をつける(灯籠絵)。また、子どもたちのために紙芝居をする。8月26日には、戦没者慰霊祭を行う。旧照来中学校の体育館から見て、右奥にある慰霊碑の中に

畑ヶ平大根の秘密

僕は畑ヶ平大根のことに興味を持った。畑ヶ平大根とは畑ヶ平高原という土地で作られている大根のことだ。畑ヶ平高原は標高が高く、約千メートル。平地より4度から5度温度が低い所なので、普通の畑ヶ平大根とは味が全然違う。畑ヶ平大根のおすすめの食べ方は大根おろしやサラダや煮物で、格段においしい。しかもこの大根は甘く、ジアスターゼという消化酵素を多く含んでいるから、消化を助け、二日酔いにも効果抜群だ！おいしいし、いろいろな

人を助ける効果があることが、自分で調べてよくわかった。ちなみにこの地域ではよく畑ヶ平大根をおでんにして食べるそう。自分が知らないいろいろな食べ方があって、畑ヶ平大根の魅力をたくさん感じるようになってきた。畑ヶ平大根が作られたのは約25年前。そして畑ヶ平大根の1年間の生産量は驚異の約100万キログラム。思ったよりも多くてびっくりした。朝1時に人を集めて3時に収穫して収穫した分はその日のうちに出荷するらしい。僕も畑ヶ平大根を収穫してみたい。(山村一樹)



標高約千メートルの高原で作られる、おいしい畑ヶ平大根

御神木であり 御神体



前原神社の御神体「大杉さん」

をつないでひと回りするくらい大きいそう。こんな太くて大きな大杉さんだが、1970年代に雷が落ちて、先端が折れ、木が二つに割れてしまった。この時折れた先端部分は、下に置かれているそう。それでも、大杉さんは、今も元気に生きている。ぜひ、実際に見に行きたい。歴史がたくさん感じられると思う。そして、御神木と言ってきた大杉さんは「御神体」でもある。御神体とは、神様が宿るとされる物のことだ。神社の誕生で語ったように、前原神社は杉の木(大杉さん)を御神木として建てられた神社だ。多くの神社の御神体は本殿とよばれる建物があるが、前原神社は御神木そのものが、御神体なのだ。(長谷坂絢末)

伊角地域の自然、歴史ある建物

私の住む地域、伊角には美しい自然がたくさんある。春には山の所々に桜が咲き、秋にはモミジやイチョウの紅葉を見ることができて、見ていると心が癒やされる。伊角の近くの地域、熊合には、大きな桜の木がある。春はきれいなピンク色の花を咲かせ、夏には鮮やかな緑色の葉を見ることができ、私もよく春にお花見に行き、とてもきれいな花見を見に行きたいと思ってしまうスポットだ。地域の周辺には主に二つの建物がある。一つは松上神社という神社だ。とても長い階段を登ると

皆さん、照来地域の一つである桐岡地区にある「前原神社」を知っていますか？ 「まえばら」神社と読む。私は夏休み、この神社の歴史について調べた。桐岡地区に住んでいる方の方に話を聞き、この地区について記録した本を参考にまとめた。前原神社がいつ頃できたかは「恐らく、江戸時代の初めか？」という記述があったので、江戸時代にできたか、またはもっと前にできたかということが分かる。桐岡地区に住んでいる方々がつくられたのではないかと。村に神社がないので、大杉さん(杉の木)を御神木として神社を建てたようだ。大杉さんの太さは、なんと小学校1年生ほどの子どもたち12人が、手

